豊田保護区保護司会　広報誌

そえぎ

NO. 90　2026.11.1

発　行　豊田保護区保護司会(豊田市保護司会・みよし支部)
事務所　豊田市西町 3-60
　　豊田市 こども・若者政策課内
問合せ先　広報部 部長　岡島 典文
　　t.zuiho@gmail.com
題　字　太田 稔彦　豊田市長
印刷所　㈱上郷印刷

第76回 “社会を明るくする運動” 中央式典



第76回“社会を明るくする運動”　～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

内閣総理大臣　メッセージ
～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

“社会を明るくする運動”は、すべての国民の皆様が、犯罪や非行の防止と 立ち直りについての理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、新たな 被害者も加害者も生まない明るい地域社会を築くための全国的な運動です。昭和26年に始まって以来、今年で76回目を迎えました。

社会の中で犯罪や非行から立ち直ろうとする人を支援する「更生保護」は、まさに安全・安心な社会の基盤となる取組です。この更生保護を支えているのが、「保護司」をはじめとする更生保護ボランティアであり、過去の過ちから立ち直ろうとする人々に寄り添い、再出発を助けています。

我が国の更生保護の取組は、海外でも高く評価されており、令和7年12月に採択された「再犯防止に関する国連準則」でも、推奨される取組の一例として、保護司（hogoshi）が紹介されています。しかし、国内において、その取組は必ずしも身近な存在として認識されていないのが現状です。

そこで、第76回運動では、「『保護司』をはじめとする更生保護ボランティアを広く知ってもらおう」という統一テーマを掲げ、より一体的に運動を展開することとしました。

政府といたしましては、本運動への賛同を示す“幸福（しあわせ）の黄色い羽根”のもと、更生保護が「あたりまえ」に知られる存在となり、立ち直りの支援の輪が更に広がるよう取り組んでまいります。

国民の皆様には、ぜひ更生保護の取組や意義に関心をお寄せください。そして、安全・安心な社会の実現のため、それぞれの立場でできることに思いを馳せ、一歩踏み出していただけますと幸いです。あなたの一歩が、社会を支える力になります。

内閣総理大臣　高市早苗

もくじ

1. 第76回 社会を明るくする運動 中央式典
　内閣総理大臣メッセージ
2. 推進委員長挨拶、名古屋保護観察所社会復帰対策官挨拶
3. 来賓挨拶、社明啓発活動報告
4. 作文コンテスト最優秀賞作品（中学生の部）
　作文コンテスト最優秀賞作品（小学生の部）
5. 作文コンテスト概要、各地区社明運動
6. 叙勲・褒章受章者紹介、研修会報告
7. みよし支部より
8. おいでん祭りパトロール報告 、よすが号報告

令和8年度
第76回　社会を明るくする運動 中央式典
- とき：令和8年6月26日(金)
- 場所：豊田産業文化センター 小ホール
- 主唱：法務省
- 主催：“社会を明るくする運動”豊田市推進委員会
- 次第：・主催者代表挨拶
　・伝達式・内閣総理大臣メッセージ
　・来賓祝辞
　・運動宣言

主催者代表挨拶



社会を明るくする運動豊田市推進委員会
委員長　**太田　稔彦**

「社会を明るくする運動」中央式典にご参加いただき、ありがとうございます。

時々、「普通」とは何だろうと考えることがあります。コロナ禍に行われた市議会の本会議で、ある議員の方がディスレクシアに関する質問をされました。ディスレクシアとは、学習障がいの一種で、読み書きに困難のある状態を指します。コロナ禍で通常どおりの授業ができず、子どもたちは自宅でプリント等に取り組むことで勉強をしているが、読み書きに困難を抱える子たちには、どのように対応しているのかという質問でした。その質問を受けた際に、「普通」とは何だろうと考えさせられました。

文字を文字として識別できなかったり、文字を書くことに支障があったりする方は、7～8%ほど、15人に1人くらいの割合でいらっしゃいます。つまり、私たちの周りにディスレクシアの方がいることは、ありふれた「普通」の状態であると言えます。そう考えたときに、「私たちが見ているものを、全ての人が同じように見ているのかは分からない」という考えをもつことが必要です。

2年前に、定時制高校を舞台にした「宙わたる教室」というテレビドラマが放映されました。その中に登場する男子生徒は、先生の話す内容への理解度や会話のレベルは高いのですが、授業中は一切教科書を開かず、テストの回答用紙は白紙ばかりのため、成績はとても悪く、「不良」というレッテルを貼られていました。

彼が授業の内容自体はよく理解していることを知った先生は、「ディスレクシアの可能性があるので、検査を受けたらどうか」と助言します。検査を受けたところ、やはり彼はディスレクシアという診断を受けました。結果を知った彼は、「なぜ今まで教えてくれなかったのか」という怒りや悲しみを感じながらも、専門のNPOへ通い、ディスレクシアを軽減・克服するため努力するというお話です。

非行に走ったり、罪を犯したりする人は、好んでそのような行動をするわけではなく、何か理由があるのだと感じています。その理由の中には、1人で抱えきれなかったり解決できなかったりする問題に悩み、どうすることもできず非行や犯罪に走ってしまうこともあるのではないかと思います。

本日は少年院の院長がいらっしゃっていますが、少年院の教官の皆さんもこれまでお話ししたような問題に直面しています。法務省もこの事情を把握しており、特別支援学校の教員を少年院へ派遣して、発達障がいをもつ院生への接し方などのレクチャーを少年院の教官の皆さんへ行っています。教官の皆さんは、専門的な情報を身に付けたうえで、院生とのコミュニケーションギャップを埋める努力をされています。また教育現場でも、コミュニケーションギャップを埋めるために専門の資格を取るなど、知識向上に向けた動きが始まっています。

「普通とはなんだろう」「自分が普通と思っていることは普通ではないかもしれない」という視点をもって考えることが、非行や犯罪の原因を知ることと強く結びついていると思います。

このような視点を持ちながら、「社会を明るくする運動」に皆さまと一緒に取り組んでいきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。また、明るく元気な豊田市のために、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶



名古屋保護観察所
所長代理　社会復帰対策官
熊田　太輔

おはようございます。本来であれば名古屋保護観察所長である小林淳雄がこちらに参ってご挨拶申し上げるべきところですが、あいにく他の公務のため出席が叶いませんでしたので、私からご挨拶申し上げます。

本日は社会を明るくする運動中央式典の開催、誠におめでとうございます。お集まりいただき誠にありがとうございます。本日の行事は法務省が主催する社会を明るくする運動の一環として開催されます。社会を明るくする運動は、すべての国民が犯罪や非行の防止と、犯罪や非行をしてしまった人の更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ犯罪や非行のない、そして新たな加害者も被害者も生まない安全で安心な地域社会を築いていこうという国民的な運動です。

昭和26年（1951年）に始まったこの運動、本年で76回を迎えました。本年の運動では統一テーマを設けております。全国統一テーマとして、「保護司をはじめとする更生保護ボランティアを広く知ってもらおう」というテーマを掲げ、ポスターやリーフレットなどの広報資材も統一テーマに沿ったものとなっております。社会を明るくする運動は昭和26年から始まり第76回を数え、非常に歴史と伝統のある活動となりますが、地域の方々に広く認知されているかというと、実はそうではありません。昨年末に実施した世論調査では、運動の名称を知っていた人が26%、運動の内容や主旨まで知っている人が5.5%という結果となりました。ちなみに社会を明るくする運動と同じ昭和26年に開始して現在まで続いているものの代表として、年末の風物詩NHK紅白歌合戦があります。そして来月開催予定のプロ野球のセ・リーグ、パ・リーグに分かれてのオールスター、そして愛知県の皆さんにとっては特に関心のあるアジア競技大会も昭和26年（1951年）に始まった同期となります。社会を明るくする運動も、今後さらに広報に努めて参りまして、更生保護の認知度をこれらに負けないように向上させていきたいと考えておりますので、皆様のお力添えをさらにいただければと思います。

立ち直りを支える地域社会や家庭を作る。そのためには更生保護ボランティアである保護司・更生保護女性会・BBS会・協力雇用主などの一部の人たちではなく、地域のすべての人たちが犯罪や非行のない安全・安心な地域社会をどのように作り、守っていくかを考えていくかが大事です。一人一人ができること、地域の一員である皆さんだからこそできる支援、本日のイベントがそれを考えていくきっかけとなればと願っております。

本日はあいにくの天気となっておりますが、梅雨や台風を吹き飛ばすべく明るく楽しいイベントとなることを期待しております。結びに、本日お集まりの皆様の益々のご健勝を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。

来賓ご祝辞



豊田市議会
議長　岩田　淳

本日は第76回「社会を明るくする運動」中央式典のご盛会、心よりお祝い申し上げます。また、太田市長や保護司会の皆様をはじめ、多くの関係団体の皆様にこの活動を支えていただいていることに、改めて感謝を申し上げます。

この「社会を明るくする運動」は、豊田市各地でも開催されております。私の住んでいる高橋地区でも、7月5日に地区社明の式典が開催され、こどもたちが犯罪防止に関する作文を発表したり、吹奏楽の演奏をしたりする予定です。豊田市議会も、各地区の「社会を明るくする運動」に毎年参加させていただいております。

式典の冒頭で、豊田市民の誓いを読み上げましたが、その4番目には、「互いに助けあい、心の輪をひろげて、あたたかい町を作りましょう」、最後には「いのちを尊び、きまりをまもって、住みよい社会をつくりましょう」という項目があります。皆様の活動がこのようなまちづくりに繋がっていることを日々実感しております。また、このような式典に出席させていただく度に、豊田市民の誓いは様々な取組みに結びついていると感じています。

最近では、SNSやAIを使った犯罪に知らない間に巻き込まれてしまうことがあります。デジタル化により世の中は大変に便利になりましたが、その弊害も生じています。デジタル化社会における危機管理についても、皆様の活動を通じて、地域のこどもたちだけでなく、大人の皆さんにも繋げていっていただきたいです。私ども豊田市議会としましても、皆様方の活動を今後も支え、応援させていただきます。

結びに、今回の運動の益々のご発展を祈念し、本日の啓発活動やこの後の各地区での活動においても、一人でも多くの方へ皆様の思いをお伝えしていただくことをお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

来賓ご祝辞



愛知少年院
院長　福岡　秀一

皆様、おはようございます。第76回社会を明るくする運動中央式典が開催されるにあたり、一言お祝いを申し上げます。日頃から皆様には犯罪や非行を犯した者への立ち直りのために、多大なご尽力をいただいておりますこと、また矯正施設の運営に対し深いご理解とご協力を賜り、心より感謝を申し上げます。

さて近年、詐欺やいわゆる闇バイトに関する報道を目にすることが増えております。法務省では一般社団法人ハッシャダイソーシャルと連携し、少年院や少年鑑別所に騙されないための教科書が配布されました。漫画・イラスト中心の小冊子で、色んな罠を理解しやすいものとなっています。家庭・学校・職場で居場所を見いだせず、孤立感を抱えている子どもほどこうした罠に付け込まれやすく、さらには先輩や友人という断りにくい関係性が利用されてリクルートされるなど、要因が重なり合った結果、詐欺に至っているケースも少なくありません。実際に些細な弱みに付け込まれ、引き受けるか、それとも大切な人に影響が及ぶかの選択に迫られ、指定された場所に向かったところ、そこで初めて危険な状況であることに気づき、その場を離れる機会をうかがっていたところ警察官に声を掛けられ、寸前のところで大きな過ちを犯さずに済んだというケースもありました。子どもたちがこれは本当に大丈夫なのかを判断できる力を育むとともに、困ったときに誰かに相談できる環境を築いていくことが大切なことだと考えております。その意味において地域の皆様による、日々の見守りや温かな声かけは、子どもたちの孤立を防ぎ、結果として犯罪や非行を未然に防ぐ大きな力となっていることを改めて感じております。

結びに、本運動が今後一層、実り多いものとなりますこと、また豊田市・豊田市保護司会をはじめ関係団体の益々のご発展と、本日御列席の皆様のご健勝を心より祈念申し上げ、お祝いの挨拶といたします。

社会を明るくする運動啓発活動

6月26日（金）、「社会を明るくする運動」中央式典終了後、啓発活動を実施しました。

当日はあいにくの天気だったため、例年の豊田市駅周辺ではなく、産業文化センター内での実施となりました。

推進委員長の太田市長を始め、保護司会と更生保護女性会会員が中心となり、豊田市議会議長の岩田様にもご協力いただき、声掛けをしながら啓発グッズを配布しました。

社明運動の周知に繋がる活動となりました。





令和8年度 第34回

「社会を明るくする運動」作文コンテスト

最優秀賞《中学生の部》

住みやすい町とは

高橋中学校　三年　鈴木（すずき）　來未（くるみ）

学校の掲示板のポスターに、「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」という言葉があった。

中学生の私たちにとっての生活の中心は「地域」である。「地域」に「チカラ」があるとは、どういうことだろう、中学生は「チカラ」になれるのだろうか、と思った。

私がよいと思う地域とは、住みやすく、安心できる町のことである。

最近、地域の人どうしの関わりが減っているように感じる。あいさつが減り、会話をしている光景を見ることも少なくなってきた。

そういう私自身も、あいさつがおろそかになっている。顔見知りの人とすれ違っても自分からあいさつができないことがある。

これでは、住みやすい町とは言えない。住民どうしがコミュニケーションをとり、元気なあいさつが飛び交う町こそ住みよい町と言えると思う。そういう町では、犯罪も起こりにくいのではないだろうか。

ある日の下校中、隣で歩いていた友達が、前から歩いてくるおばあちゃんに「こんにちは」と、元気なあいさつをした。それを聞いたおばあちゃんは、うれしそうな顔で、「おかえり」と言ってくれた。また、「給食全部食べた？」と聞かれた、友達は相変わらず元気な声で、「うん、全部食べたよ」と答えた。おばあちゃんはより一層顔が明るくなって、「ほんと。えらいね」と嬉しそうに言い、「じゃあね」「うん。ばいばい」と言葉を交わして分かれた。

おばあちゃんが去った後の友達は嬉しそうな顔をしていた。私は、近所の人とのコミュニケーションが人を笑顔にすることを知った。

その友達は、別の日も他のおばあちゃんに声をかけて立ち話をしていた。今回は私も会話に入ることができた。勉強の話になり、受験が不安だということを打ち明けると、おばあちゃんは、にっこり笑って、「大丈夫よ。まだまだこれからだから」と勇気づけてくれた。その後も少し雑談し、そのおばあちゃんと別れた。自然と私は笑っていた。

五分もない短い立ち話だったのに、気がついたら心が晴れていた。人とのコミュニケーションでこんなにも笑顔になれるということを、二回目は肌身で感じた。

私はあいさつでさえおろそかになってしまっているのに、友達はためらうことなく、あいさつだけでなく話しかけていた。

私のようにあいさつをしない人が増えていくと、住みやすく、笑顔があふれる町からかけ離れていくのではないか。人とのあいさつやコミュニケーションが人を笑顔にし、住みやすい町をつくっていくということを実感した。

では、どのようにしたらあいさつが飛び交い、笑顔があふれる住みやすい町になるのだろうか。

町全体であいさつキャンペーンをすれば、あいさつは一気に増えるが、簡単にはキャンペーンが実施できなかったり、キャンペーン期間しかあいさつが増えなかったりするのではないだろうか。悪くはないが、最善策ではないような気がする。

そこで、私は、「あいさつのリレー」が住みやすい社会に近づくための方法だと考える。それは、地域の人に笑顔でよいあいさつをすることで、あいさつされた人が別の人にもあいさつをし、どんどんつながっていくあいさつが増えるという仕組みだ。百点のあいさつをされた人は、他の人にもそのあいさつを返したくなる。そのようにして、どんどんあいさつが広がるだろう。

私は、今自分が住んでいる町をあいさつのあふれる町にしたいと思う。それが、安心して暮らせる町の「チカラ」になると思う。

そのために、私は、あいさつのリレーの第一走者になって、この地域を笑顔があふれ、住みやすい場所になるように努力したい。私も「チカラ」の一部になれるのではないだろうか。

最優秀賞《小学生の部》

誰かの笑顔のために

九久平小学校　六年　近持（ちかもち）　麻央（まお）

チョキチョキ、ジャクジャク。私は今、髪を切っています。ヘアードネーションをするためです。ヘアードネーションとは、病気や事故などで髪を失った人のために、自分の髪を寄付して医療用ウィッグを作り、無償で提供するボランティア活動です。

私が最初にヘアードネーションを知ったのは、おばあちゃんが食道がんになった時でした。おばあちゃんはステージ４のがんで、みるみるやせていき、長くてきれいだった髪も短く切ってしまいました。一年生だった私は、おばあちゃんのために何かできないかと考えていました。

そんなある朝、テレビで十歳の男の子がヘアードネーションのために髪を伸ばしているという話を見ました。私は「これだ」と思いました。すぐにお母さんにヘアードネーションについて教えてもらい、美容院へ連れて行ってもらいました。そこで美容師さんから、「三十一センチ以上あれば寄付できますよ」と教えてもらいました。私は自分の髪でおばあちゃんのウィッグを作ってほしいと思い髪を

切ることにしました。しかし、一つのウィッグを作るには何人もの髪が必要だと知りました。少し残念に思いましたが、おばあちゃんは、

「ありがとう。これも誰かの髪の一部やで」

と言ってくれました。その言葉を聞いて、私の髪も誰かの役に立てるのだとうれしくなりました。

そして三年生の春、私は病院でお兄ちゃんの友達に会いました。その女の子は前髪を編み、髪の少ないところを隠すようにしていました。その姿を見た私は、もう一度ヘアードネーションをしたいと思いました。お母さんにその気持ちを伝えると、

「前回大変だったのに、本当にまたやるの」

と聞かれました。私は、

「私の髪で誰かを笑顔にできるならやりたい。困っている人の役に立ちたい」

とはっきり答えました。

ところが、その時の髪の長さでは寄付できるまでまだ二年ほどかかると言われました。髪を伸ばすことは思った以上に大変でした。夏になると背中にあせもができてかゆくなります。髪が長くて量も多いため、毎朝とかすだけでも時間がかかりました。シャンプーも大変で、乾かすのにも時間が必要です。短く切りたいと思ったことも何度もありました。それでも私は髪を伸ばし続けました。病気で髪が生えなくなった人や、治療の副作用で髪を失った人の気持ちを考えると、私の苦労は比べものにならないと思ったからです。

また、髪を伸ばしている間、たくさんの人に支えてもらいました。お母さんは毎日髪を結ってくれました。先生は私が過ごしやすいよう気づかってくださいました。美容師さんは寄付できる長さになるまで応援してくれました。

私はこの経験を通して、人は一人では生きていけないことを学びました。さらに、ヘアードネーションも一人ではできません。髪を寄付する人、美容師さん、ウィッグを作る人、それを必要とする人へ届ける人など、多くの人の協力によって成り立っています。

私は以前、「人の役に立つ」ということは特別なことだと思っていました。でも今は少し違います。相手の気持ちを考えること、困っている人のことを知ろうとすること、できることを少しでも行動に移すことが大切なのだと思います。社会を明るくするためには、誰かを一人ぼっちにしないことが必要です。病気で苦しんでいる人も、悩みを抱えている人も、「あなたのことを気にかけている人がいる」と感じられれば、少し安心できるのではないでしょうか。

私はヘアードネーションを通して、支え合うことの大切さを学びました。そして、小さな思いやりでも誰かの力になれることを知りました。私はこれからも、自分にできることを見つけ、困っている人に手を差し伸べられる人になりたいです。そして、誰も一人ぼっちにならない明るい社会をつくっていきたいです。

今日、私は美容院のイスに座っています。ハサミが入る瞬間は、やっぱり少し緊張します。

チョキチョキ、ジャクジャク。切られた髪が目の前に置かれたとき、私はうれしい気持ちになりました。私一人にできることは小さいかもしれません。でも、その小さな思いやりが集まれば、誰かの笑顔につながります。そして、その笑顔が増えることが、明るい社会につながるのだと思います。

短くなった頭はとても軽くなりました。そして心も温かくなりました。次に私がヘアードネーションをしたくなる日は、きっとそんなに遠くないと思います。人を支え合うことが社会を明るくすることにつながると知ったからです。誰かに笑顔になってほしいから。

【作文コンテストの趣旨】

法務省が主唱する“社会を明るくする運動”は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、新たな被害者も加害者も生まない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な活動です。

「“社会を明るくする運動”作文コンテスト」は、次代を担う全国の小・中学生の皆さんに、日常の家庭生活や学校生活の中で体験したこと、あるいは更生保護や保護司などのボランティアの活動について聞いたり調べたりしたことを基に、安全・安心な明るい地域社会づくりや犯罪・非行をした人の立ち直りについて考えたことを作文に書くことを通じ、更生保護に対する理解を深めてもらうことを目的とし、第43回運動（平成5年）から毎年行っているものです。

・応募総数	中学生	51点	小学生	284点
・校内選考	中学校	14点	小学校	24点



審査結果

最優秀賞…鈴木（すずき） 來未（くるみ）（高橋中）、近持（ちかもち） 麻央（まお）（九久平小）

優秀賞…末岡（すえおか） 優樹菜（ゆきな）（前林中）、眞籠（まごめ） 陽子（ようこ）（浄水北小）

審査員賞…青谷（あおたに） 虹湖（にこ）（藤岡南中）

社会を明るくする運動 各地区の活動

期間中、各地区で講演会・主張発表会・街頭啓発活動など、地域性を活かし様々な推進活動が展開されました。

紙面の都合上、全ての地区の紹介ができませんこと、ご了承ください。


小原地区


猿投地区


前林地区


末野原地区


美里地区


豊南地区


高橋地区


藤岡地区


竜神地区


保見地区


梅坪台地区


上郷地区


逢妻地区


歌化館地区


下山地区

叙勲・褒章受章者紹介

瑞宝双光章

山本　裕江

委嘱　平成12・5・25

人生につまづいた人たちの話を聞きながら、二十数年が過ぎ、この度、天皇陛下御拝謁の機会に恵まれました。

皇居では、日本の原風景に触れ、そして、今に延々と大切に守られている事を目前にして、人生観が変わる思いです。

今後もより一層、更生保護活動に尽力して参ります。

藍綬褒章

尾形かをる

委嘱　平成14・5・25

この度、思いがけず春の藍綬褒章を頂き、身に余る光栄に心より感謝しております。

保護司になり一番心に残っている事は、主任官との三者面談で私達の会話を耳にし「こんなに対象者と保護司さんの関係性の良さに出会ったのは初めてです」と言われた事に、私なりの信頼と思いやりの対応で良かったと、少しは更生のお手伝いが出来たかなと思っています。

皇居で真近に天皇陛下と御拝謁でき貴重な体験が出来ました事に、改めて諸先輩方、関係者の皆様のおかげと感謝申し上げると共に私の一生の宝物となりました。

これからの任期を頂いた賞に恥じる事なく尽力して行きたいと思います。



太田市長を表敬訪問した
山本保護司（左）と尾形保護司（右）

研修会報告

令和8年度 第1回自主研修会

日時：令和8年6月12日（金）、13時30分から

場所：豊田市福祉センター

講師：愛知少年院
院長　福岡秀一様

テーマ
『急増する若者の犯罪にどのように対応すべきか』

出席者数：80名





令和8年度 第1回新任保護司研修会

日時：令和8年7月10日（金）13時30分から

場所：豊田市役所 南庁舎

講師：名古屋保護観察所
主任官　粕谷健太様

テーマ『保護観察の進め方』

出席者：19名

令和8年5月新任保護司新任式

6月12日（金）、第1回自主研修会終了後、令和8年5月に新任された保護司の新任式が行われました。新任の保護司の先生方は、左記の通りです。

末野原地区　石川（いしかわ）　弘典（ひろのり）
藤岡南地区　重松（しげまつ）　成人（なると）
前林地区　杉浦（すぎうら）　俊雄（としお）
松平地区　佐藤（さとう）　いずみ
若林地区　足立（あだち）　恵子（けいこ）



そえぎ

みよし支部

事務所　みよし市三好町小坂50番地
みよし市役所　福祉課内
TEL 0561－32－8010
広報担当　塚本・原田

「いいじゃん祭り」巡回活動

保護司　塚本　憲一

令和8年8月23日（土）、みよし市の三大祭りの一つである「いいじゃん祭り」が市の中心地において盛大に開催されました。当日は「大提灯祭り」も同時に開催されたため、会場周辺の道路は一時的に通行止めとなり、老若男女問わず多くの人々で埋め尽くされました。

道路いっぱいに広がる踊り手の輪と、夏の一日を心から楽しむ見物客の熱気により、会場全体が大変な活気に包まれていました。そのような中、私たち保護司は、地域の安全・安心をしっかりと見守るため、会場周辺の巡回活動を行いました。当日は歩くのもままならないほどの混雑ぶりでしたが、幸いにも事故やトラブル等の一報もなく、無事にすべての行程を終了することができました。

夏の厳暑の中での巡回となり、肉体的にはなかなかの過酷さもありましたが、市民の皆様の楽しそうな笑顔や活気ある様子に触れ、心地よい疲労感とともに充実感を味わうことができました。これからも、地域の皆様が安心して暮らせる環境を守るため、日々の見守り活動に力を注いでまいります。



「社会を明るくする運動」街頭啓発活動

保護司　塚本　憲一

「みよし市をより安全で安心な街にしたい」という強い思いを胸に、令和8年7月22日（水）と29日（水）の両日、三好イオン店舗のご協力をいただきながら、保護司および更生保護女性会の皆様と共に「社会を明るくする運動」の街頭啓発を実施いたしました。

多くのお客様が行き交う店頭において、犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域づくりの大切さを訴えながら、啓発品を一人ひとりにお配りしました。その際、足を止めてくださった方や、「いつもごくろうさま」「頑張ってね」と温かいお声をかけてくださる市民の方々がいらっしゃいました。そうした何気ない一言が、私たち日々の活動の大きな励みとなり、これまでの苦労や努力が報われるような深い喜びとやりがいを感じました。

今回の活動を通して、「社会を明るくする運動」の理念が、市民の皆様の心に少しずつでも浸透してきている手応えを実感することができました。これからも、誰もが孤立せず、温かく見守り合える住みよい街みよしを目指して、この啓発活動をしっかりと推進してまいります。



地域全体で支える保護司活動

支部長　岡本　洋子

私たちみよし支部は、13名の保護司で活動しています。少人数ならではの良さを活かし、保護司同士の交流や情報交換など、和気あいあいと活動しています。

ある時は処遇が思うようにいかない事例の相談に乗ったり、またある時は対象者の成長や更生を一緒に喜んだりと、常に保護司同士の仲間意識を大切にしてきました。

私たちの保護司活動が充実することは、市全体の安全・安心な暮らしを守ることにつながると確信しています。しかしながら、現在、保護司の欠員や高齢化が進んでいるのが現状です。「保護司法」の改正等において、保護司の適任者確保や活動環境の改善、安全確保などが盛り込まれました。

だからこそ今、若い世代の保護司を確保するための、より具体的な施策に期待しています。そのためには、現役で働いている世代が、仕事を続けながらも研修や会議、その他の活動に参加できる体制を整えていくことが不可欠です。保護司個人の熱意や使命感だけに頼るのではなく、地域や社会全体で保護司活動を支える環境が作られることを強く願っています。



豊田おいでんまつりパトロール

7月25日(土)19時から、保護司と補導員の皆様と共同活動として、豊田おいでんまつりパトロールを実施しました。豊田市駅周辺の主会場を中心に約一時間の活動をし、犯罪の抑止と事故の防止に努めました。





よすが号パトロール

社会を明るくする運動の一環として、各地区においてよすが号での防犯パトロールを実施しました。


藤岡地区


梅坪台地区


豊南地区


末野原地区


竜神地区


松平地区


上郷地区


浄水地区


前林地区


朝日ヶ丘地区


逢妻地区


益富地区


猿投地区


高橋地区


若園地区

編集後記

「社会を明るくする運動」作文コンテストの審査員も務めています。

小学生・中学生の作文から、純粋で真っすぐな主張を読み取ることができます。最優秀作品をご覧いただき、皆さんの心も明るくなっていただければ幸いです。


ホゴちゃん


サラちゃん